

変形性膝関節症に対する最新治療

整形外科 辻本 貴志

人工関節置換術



図1. 人工関節の一例

高齢化社会にともなって、膝の軟骨がすり減ってしまう変形性膝関節症の患者さんが増加してきています。近年では、完全に軟骨がすり減ってなくなってしまう膝に人工の関節(図1)を入れ替える人工関節置換術が行われています(図2)。

現在、人工関節置換術を受ける患者さんは全国で年間8万人を超えてきており、今後もさらに増加することが予想されます。

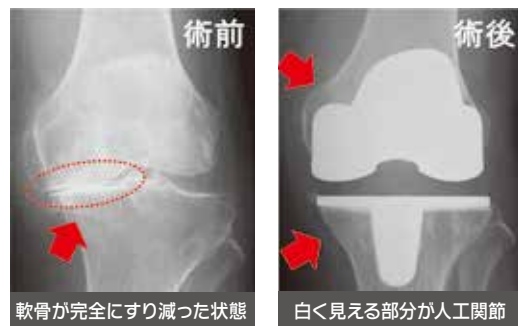


図2. 手術前後の膝関節の様子

モダン人工関節置換術



図3. コンピューターナビゲーションシステム

近年は痛みを取るだけでなく、より患者さんの満足度が高い治療が求められています。治療技術が進歩し、コンピューターによって正確で安全に手術ができるナビゲーションシステム(図3)が導入され始めています。人間の目側で手術を行うと、2~3度の狂いは生じがちですが、このナビゲーションシステムでは手術中に骨を切る角度が0.5度単位で表示されるので、正確に足をまっすぐに矯正することが可能になり(図4)、それによって術後の機能が良くなり、人工関節の入れ直しのリスクを減らすことが期待できます。

また、このナビゲーションシステムに加え、膝により良い安定感を与える手術方法を用いたり、最新の

人工関節機種を導入するなど、最先端の人工膝関節置換術が行われるようになってきました。麻酔科と連携して神経ブロック*を併用することで、痛みが最も強い術後2~3日間をコントロールしたり、早期の回復を目指して、専門の理学療法士が患者さんの生活環境に合わせたリハビリテーションを行うところもあります。

膝の痛みにお悩みの方は、一度専門医にご相談ください。

*神経ブロックとは痛みを感じる原因となっている部分や神経に局所麻酔剤を注射することで痛みを軽減する治療法のこと



図4. ナビゲーションシステムによる手術前後の脚の様子

関西ろうさい病院の理念

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に関心し、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。



イメージキャラクター
かんろっこ

さぶりめんと

2016-Jan.

No.35

突発性難聴に対する音響療法

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 福嶋 宗久

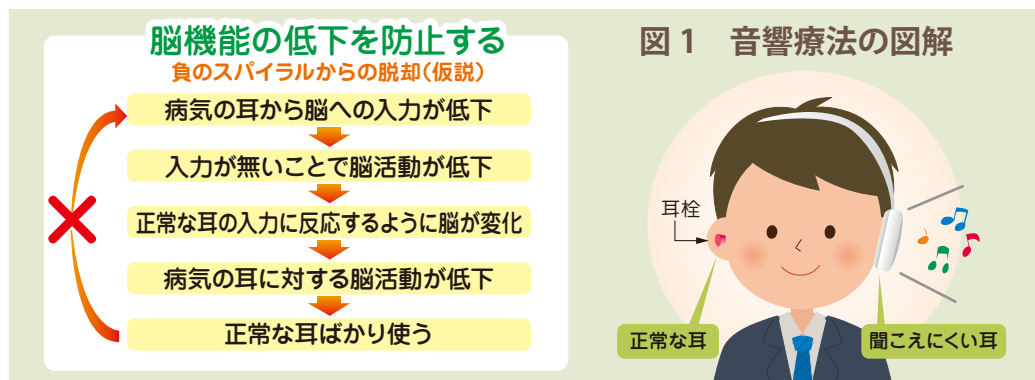
ある日突然、片耳が聞こえなくなる病気

突発性難聴を発症する原因は不明で、内耳の循環障害もしくはウイルス感染等が考えられています。国内では現在、ステロイドを使用した治療が一般的に行われています。発症後はなるべく早期の治療が望ましいですが、2週間以内に治療しても元通りの聞こえに改善する割合は残念ながらさほど高くありません。1/3が元に戻って「治癒」しますが、1/3が少し良くなる「改善」、1/3は全く良くならない「不変」です。関西では10万人あたり年間40人程度がこの病気で病院を受診しています。

ステロイド治療の効果は？

国内で広く行われているステロイド治療ですが、国外においては必ずしも標準的な治療方法ではありません。ステロイドを含む薬物治療を行った場合と、実際には効果のない偽薬を用いて治療を行った場合との効果を比較すると、突発性難聴の治り方には差がないとする海外の論文もあるほどです。専門家の間でもステロイドに治療効果があるかどうかについては、意見は分かれています。

当院で取り組む新しい治療法「音響療法」とは？



突発性難聴を発症すると、聞こえの残った片耳から入ってくる音にだけ反応するように脳が変化します。このことは合理的ではありますが、突発性難聴のダメージから耳が回復していく過程で、その働きを妨げる理由

ともなっています。音響療法の目的は、聞こえを悪くした側の耳から音楽を聴いてもらって脳を刺激し、聞こえの回復を促す治療方法です。聞こえの良い方の耳には耳栓を付けてもらい一時的に両耳を聞こえにくくしますので、基本的には入院しながら安全に行っています(図1)。

早めの受診が肝心

突発性難聴後の脳の変化は非常に早い時期に生じますので、**発症後5日以内**が音響療法による効果をもたらす目安となります(図2)。聞こえに異常を感じたら早めに受診してください。

図2 認識できる最小音量の左右差

